

ながさきけん していし せき  
長崎県指定史跡

え むかえ ほん じん  
江 迎 本 陣 (潜 龍 酒 造)

ながさきけん していゆうけいぶん かざい  
長崎県指定有形文化財

やま した け もと ぐら  
山 下 家 も と (酛) 蔵



江戸時代に江迎の中心だった町筋は「江迎宿」と呼ばれていました。宿場には、参勤交代のときの大名(藩主)の宿舎である「本陣」も整備されました。江迎本陣となった「山下家」は、元禄年間(1688~1703)頃に創業したといわれる造り酒屋で、平戸往還の本陣の中で、唯一当時の建物が残っています。

### 【見学のお知らせ】

予約制。電話にて事前連絡をお願いします。  
見学時間は営業日の午前9時から午後4時まで。  
※12月の見学、未就学児の方、ペットを連れての入場はご遠慮ください。

### ◆見学科

本陣屋敷: 大人 / 100円 (団体20名以上50円)  
中学生以下 / 無料

山下家もと蔵: 無料

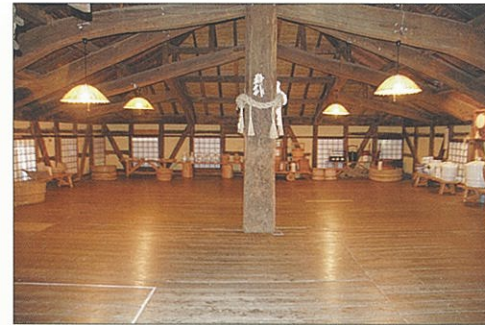
### ◆問合せ・見学申込先

潜龍酒蔵株式会社 TEL (0956) 65-2209



「枕水舎」から見た庭

山下家のもと(酛)蔵内部



元禄元年(1688)に建てられたと伝わる「酛蔵」は、釘を1本も使わずに中央の1つの柱で全てを支える特殊な方法で建てられており、蒸米の放冷作業のための温度や湿度調整が行えるように、2階の窓は開閉できるようにもなっています。

山下家は、地元の人から「御本陣」と呼ばれており、現在の本陣は、天保元年(1830)から改築と築庭を始め、天保3年(1833)に完成しています。中でも庭の泉水の中に突き出た格好で建てられた「枕水舎」は、藩主が休んだときに枕の下まで水が来ているということから名付けられました。

「御成門」から入る屋敷には、藩主専用の座敷や風呂等の部屋のほか藩主が使用した日用品(食器類・漆器類等)、庭には「水琴窟」など数多くのものが残っています。「水琴窟」は、今では珍しい仕掛けで、水滴の反響により琴のような音を奏でています。



↑ 藩主専用の座敷と日用品 ↓



藩主専用の門「御成門」



「枕水舎」



「水琴窟」